

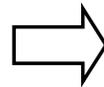
## 1 1 その他の疾病、医療

### ア 精神保健医療

#### ポイント

#### 現状と課題

- ・ストレス等により精神疾患に罹患する者が増加。
- ・精神科医療は、入院治療中心から地域ケア中心に変革。  
入院患者が早期に退院して、地域で生活していくための支援が必要。
- ・増加している自殺に的確に対応する対策が必要。



#### 対策

- ・精神科医療の充実
- ・社会復帰対策の推進
- ・こころの健康づくり、自殺対策
- ・認知症疾患対策

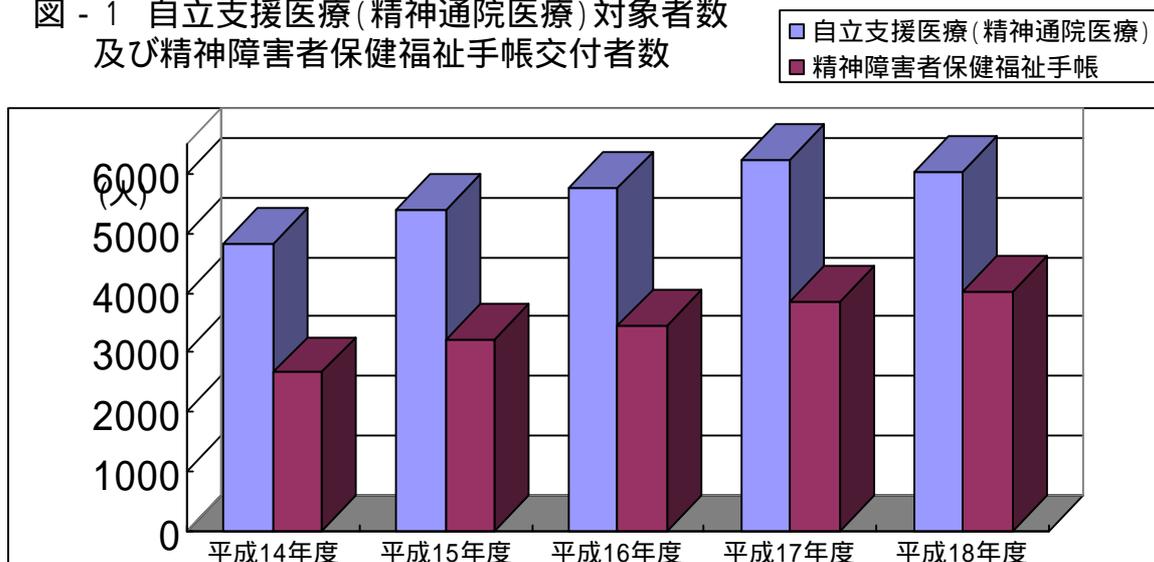
#### < 現状と課題 >

#### 1 精神障害者の現状

平成 19 年 3 月末現在の自立支援医療(精神通院医療)による公費負担対象者は 6,056 人、精神障害者保健福祉手帳所持者数は 4,032 人で、増加傾向にあります(図-1 参照)。

また、同日現在の精神科病院の入院患者は 2,195 人で、このうち約 300 人は、地域で生活していく上での条件が整えば退院可能な、いわゆる社会的入院患者であると推計されています。

図 - 1 自立支援医療(精神通院医療)対象者数  
及び精神障害者保健福祉手帳交付者数



県では、精神科基幹病院である県立北病院に重篤な患者に対応するための急性期治療専用病棟を整備するとともに、社会的入院患者の退院と社会復帰を促進するために病院と地域との中間的な施設として、平成 19 年 1 月に県立あゆみの家を設置しました。

地域で生活する精神障害者のリハビリ治療の一環としての精神科デイケア施設が県内に 12 ケ所あり、医師の指示のもとに作業療法士、精神科ソーシャルワーカーなどによる作業療法等多様なプログラムが用意されています。

殺人、傷害等重大な他害行為を行ったにもかかわらず、心神喪失又は心神耗弱の状態にあるため不起訴、無罪等の判決を受けた者に対しては、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（略称「医療観察法」）」に基づき、入院又は通院の決定をするための審判が行われることになっています。

本県では、他害行為を行った者の通院医療機関として県立北病院、花園病院、日下部記念病院の 3 病院が指定されています。

## **2 社会復帰対策の推進**

近年の精神科医療は、短期入院と早期退院、精神科病院の開放化など入院医療中心から地域ケア中心へと内容が大きく変わりつつあります。

このため、精神科病院入院患者の早期退院と地域支援のための取り組みが必要です。

精神障害者が地域で自立した社会生活や日常生活を営むことができるように、平成 16 年 3 月に策定した「新たなやまなし障害者プラン」に沿って、地域における住まいや働く場の拡充を図っていく必要があります。

また、精神科病院が所在する 4 圏域において、精神科病院の社会的入院患者をマンツーマンで支援して退院を促進する精神障害者退院促進支援事業を実施しています。

## **3 こころの健康づくり・自殺予防対策**

現代社会における生活環境や社会状況の変化は、個人に対する精神的なストレスを増大させています。

このため、働き盛りの年齢層を中心にうつ病等の精神疾患患者が増加しており、自殺で亡くなる患者も多くいます（表-1、図-2、図-3 参照）。

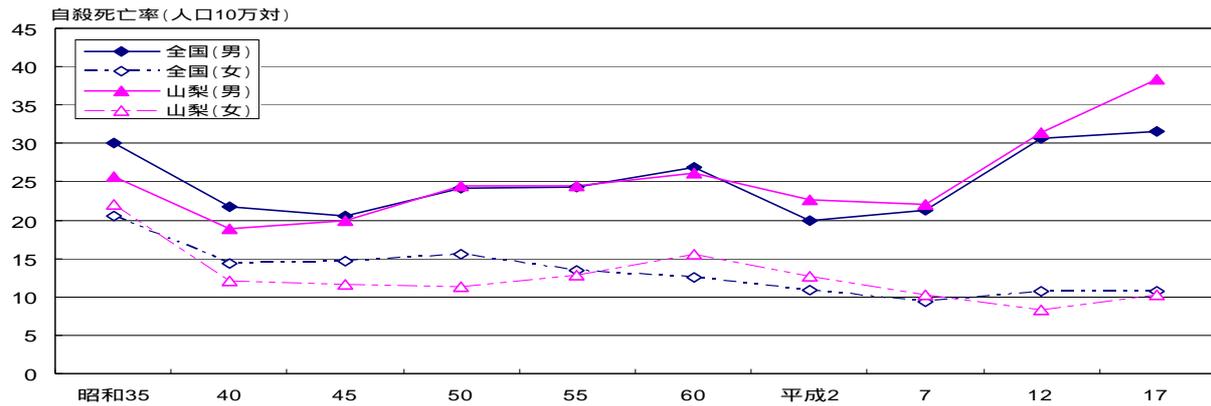
表 - 1 山梨県の自殺者数の推移

(単位:人)

	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
自殺者数	220	223	215	234	248

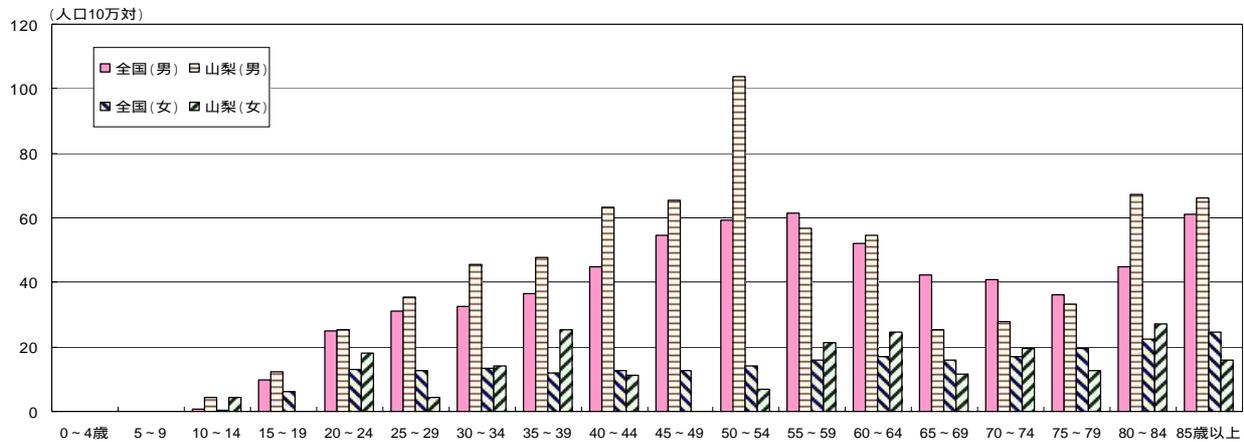
資料:人口動態調査(厚生労働省)

図 - 2 性別自殺死亡率(年齢調整死亡率)の推移



資料:人口動態調査特殊報告(厚生労働省)

図 - 3 年齢階級別・性別自殺死亡率(平成17年)



資料:人口動態調査特殊報告(厚生労働省)

県立精神保健福祉センターでは、さまざまな悩みを抱えた県民が気軽に相談できるこころの健康づくりを推進しています。

また、自殺予防に携わる国、県及び市町村並びに関係機関・団体の連携を強化して、総合的な自殺予防対策を推進するため、「いのちのセーフティネット連絡協議会」を設置して、本県の自殺の実態に関する認識を共有するとともに、情報交換、意見交換を行っています。

さらに、自殺と密接な関係があるといわれるうつ病の早期発見と早期治療のための取り組みを進めています。

#### 4 認知症疾患対策

県では、保健所での精神科医や精神保健福祉相談員による精神保健福祉相談を実施して、認知症患者の早期発見と適切な指導を行っています。

また、県内の精神科病院には、老人性認知症患者に対応できる病棟が4ヶ所、認知症デイケアが2ヶ所あり、認知症患者への専門医療を提供しています。

老人性認知症疾患に対応できる病棟	(医) 南山会( 峡西病院 ) (財) 花園病院 (医) 回生堂病院 (医) 葦崎東ヶ丘病院
老人性認知症デイケア施設	(医) 南山会( 峡西病院 ) (財) 花園病院

#### < 対策 >

##### 1 精神科医療の充実

救急・急性期患者の受け入れ強化

県立北病院が、県内唯一の精神科基幹病院としての役割を果たすため、今後とも、地域の医療機関、市町村、保健所、警察等の関係機関との連携を深め、救急・急性期患者の受け入れの強化を推進します。

精神科デイケアの充実・強化

通院形態によるリハビリテーションの中心的な治療であるデイケア並びにショートケアの治療プログラムの充実を図り、参加者の確保に努めます。

##### 2 社会復帰対策の推進

社会的入院患者の退院促進

指定相談支援事業者等( )を中心に、保健所や市町村、精神科病院、福祉サービス事業者等と連携し、精神科病院に入院中で、受け入れ条件が整えば退院可能な精神障害者の地域生活への移行を進めます。

---

#### [用語解説]

( ) 指定相談支援事業者

障害者等の福祉に関する問題について、障害者やその保護者等からの相談に応じ、必要な助言等を行う事業所。

## 就労支援

在宅の精神障害者のうち就労を希望する者を一般企業に受け入れて、作業能力や持久力、円滑な人間関係を形成する能力等を養う精神障害者社会適応訓練事業を引き続き実施して、精神障害者の就労を支援します。

## 地域生活支援

精神障害者が地域で自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、指定相談支援事業者による相談支援の充実、グループホーム等の住まいの確保、地域活動支援センター（ ）による集いの場の確保などを進めます。

### 3 こころの健康づくり・自殺対策

#### こころの健康づくりの推進

県立精神保健福祉センターにおいて、こころの電話相談（ストレスダイヤル）により県民の相談に応じるとともに、思春期コンサルタント事業や薬物、アルコール等に関する相談事業など、さまざまな悩みに応じたこころの健康づくりを引き続き推進します。

#### 自殺予防対策の推進

増加傾向にある自殺者数を減少させるため、関係機関・団体の連携を強化して、本県の自殺の実態を踏まえた総合的な自殺予防対策を推進します。

### 4 認知症疾患対策

#### 認知症疾患対策の推進

老人性認知症対策では、早期発見、早期治療が重要であることから、保健・医療・福祉関係者が連携して、保健所における相談事業など地域における認知症疾患対策を推進します。

---

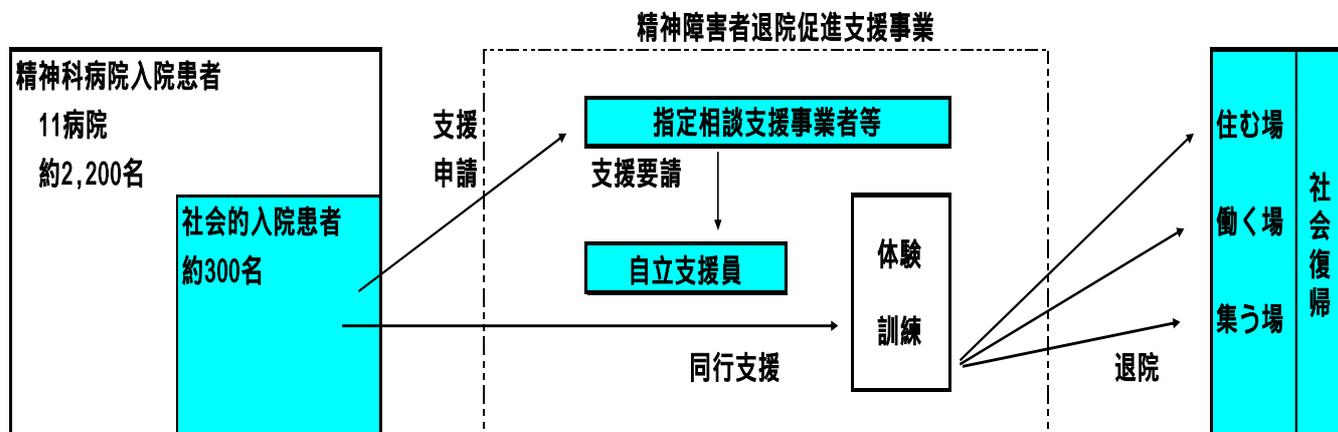
#### [用語解説]

#### （ ）地域活動支援センター

障害者が通い、創作的活動又は生産活動の場の提供、社会との交流の促進等を行う施設。

< 推進体制 >

精神科病院の社会的入院患者の退院促進



< 指標（数値目標） >

目標項目等	現状	平成24年度目標
平均残存率( 1)	30.6%(H17)	24.0%
退院率( 2)	25.0%(H17)	27.0%
精神障害者社会適応訓練事業の登録事業者数	127事業所(H18)	152事業所
自殺者数	248人(H18)	218人以下

[用語解説]

( 1 ) 平均残存率

精神科病院に入院した患者が入院後1年以内に退院せずに入院している割合

( 2 ) 退院率

精神科病院の入院期間が1年以上である者の年間退院率